創立１４３周年

学校だより

# 南風（はえ）の子

中種子町立
南界小学校

平成28年６月９日（木）発行

## 落ち着きの生活　読書の好機に

校長　岡留　祐宏

梅雨入りしても晴天が続いています。雨が似合うあじさいの花ですが，青空の下，爽やかな風に揺れるあじさいの花は，また，ちがった味わいがあるように思います。

さて，２８年度も２か月が経過し，１学期後半へと折り返しました。１学期で一番落ち着いて学校生活を過ごせる時期です。本校ではこの時期に「校内読書旬間」を設定し，読書の楽しさを味わいながら望ましい読書習慣を身に付ける期間として取り組むことにしています。

学年に応じて読書の楽しみや興味を発見できるように，おすすめの本を紹介した２０冊の「ブックリスト」を子どもたちに渡しています。すでに，ブックリストの本を全部読んだ子どもたちもたくさんいます。図書バッグに本を入れて登下校する子どもたちの姿，教室や図書室で本を読む子どもたちの目，給食時間の読み聞かせやソテツタイムでの詩の暗唱の声など，本と子どものいい関係をもっとつくりたいと思うことです。「いい本と出会うこと」「日常生活の中に本があること」の期間にできたらと思います。

歯の健康教室から

読書の効用で web 検索したら，下記のことが書かれていました。

**① 自分がたどり着きたいところに行くための知恵　② 人生の課題を乗り越えるプロセスやメンタル力**
**③ 集中力，物事の理解のスキル，共感力　④ 短時間でストレス解消　⑤社会のルール**
**⑥ 心の安定　⑦ 自分への自信　⑧ 脳内活性化　⑨ アルツハイマー予防　⑩ 自分の過ちに気付く**
**⑪ 記憶力向上　⑫ センスUP　⑬ 新しいアイデア　⑭ 書くスキルUP　⑮ 自分を知る契機**

## 「やばい」がついに褒め言葉に

元ＮＨＫアナウンサーの加藤昌男さんの「ことばの新事情」という評論からの紹介です。

生命保険会社が毎年発表する「サラリーマン川柳」にこんな作品がありました。

**部下の言う『課長やばい』は褒め言葉**

この「やばい」ということばは，例えば信号無視の自転車が突進して来たら「アッ，課長やばい！」と叫ぶことはあるでしょう。しかし，この川柳では「課長，そのアイディア，すごいっすね，サイコー」という使われ方のようです。

以前は「あぶない」という意味で使われていた若者言葉が「すごい」になり，ついには「衝撃を受けるほどすばらしい」という意味にまで広がってきました。最近では，若者に限らず，男女を問わず，時も所もわきまえず，また，子どもたちまでもがしばしば口にすることばになってしまいました。（略）

芸能界では「楽屋落ち」と呼ばれる身内だけの冗談やしゃれを表舞台で使うことは禁じ手とされてきました。ところが，「楽屋裏」で交わされる「業界ことば」をそのまま電波に乗せるバラエティ番組が増えてきました。お笑い番組の「ネタ」ということばも，「話の種」の「タネ」を逆にした「倒語」で，決して品のいいことばではありません。約束を土壇場でキャンセルする「ドタキャン」も芸能界の隠語です。（中略）「爆買い」「激安商品」，「トラブる」「パニクる」，「ウザい」「ダサい」など，過激で品のないことばが次々と登場し，日常生活に蔓延する風潮は子どもたちにとっては決して望ましい言語環境とは言えません。

品のないことばを使わないで済む方法。答えは明白です。それに代わる表現をたくさん持つこと，これに尽きます。ボキャブラリーが乏しいと「やばい」といった貧弱なことばしか出てきません。（中略）例えば親からお説教された時に，「怒られた」「叱られた」「雷を落とされた」「お目玉を食らった」「戒められた」「とがめられた」「諭された」と，お説教の種類もたくさんあります。ところが，最近は強いことばだけが生き残って様々なニュアンスを表す言い回しが減ってきたことが気になります。

子どもたちのことばの力を育てるためには，様々なニュアンスや心の機微を表すことばを子どもたちの耳に繰り返し届けることが肝心です。どんなことばが時と所にふさわしいか，どんなことばがその逆か，判断するのは子どもたち自身です。その聞き分け方，使い分け方，判断の仕方を日々の生活の中に丹念に示していきたいものです。